

令和6年度 第2回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年6月24日（月） 13時15分から15時まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 松田 勝、松本 依子、小山 正博、大澤 一夫、内山 丈夫、村上 美代子、
今泉 るり子
- 4 欠席委員 大石 恵麻
- 5 学 校 坪井 百合子（校長）、大渡 和正（教頭）、池野 紀子（CS担当）
山田 公子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に確認を行い、松田会長より松本副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- ・学校の抱える課題と改善策について

10 会議記録

司会の大渡教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

議長の指示により、別紙資料に基づき、学校の抱える課題について校長より説明があった。職員の減少により、支援が必要な児童に対応することが数的に大変である現状、それに対しての創意工夫が説明された。草取りなどのボランティアとして来校し、子供に声を掛けてくれる地域の方もいらっしゃる。授業という形に限らず、地域の方と学校が関わりを持つことで、「地域にこういうふうに学校を応援してくれている人がいる」と子供たちに認識してもらうことが大切である。それにより、子供たちが自分たちを見てくれる人がいると感じ、言葉を交わすことで、互いに寄り添うきっかけとなるのではないかと期待する。また、地域や保護者の方が、様々なボランティアで来校してくれることは大変ありがたく、学習時間の手厚い支援の広がりを実現している。説明を受け、委員からは以下の発言があった。

①改善の大枠及び人材の活用

- ・スクールヘルパーの減少は、学校にとって大変厳しい状況である。支援の必要性に応じて、学校側が自ら職員を増やす仕組みがあるといい。現状の人数で、安全を守りながら指導する先生方の苦労が増えていることは、容易に想像できる。簡単に必要な人数を揃えられない状況下、相対的に考え、地域の人材の有効活用に取り組むべきだ。学校を取り巻く周りの人達に、どうやったら人材不足を伝えられるか方策を練ることも必要だ。いずれにしても、何をすれば解決できるのかは、学校やこの会議だけでなく、もっと大きな枠組みの中で全体として考えていくべきである。（大澤委員）
- ・職員の数が少ない状態での応援要請は、それぞれの担当外の時間も少なく負担が大きい。地

域の元教員など、経験豊富な方に助けていただき、うまく支え合えないか。また、自治会の中にも様々なジャンルの経験者がいるため、活用のチャンスを広げるために、地元から声を上げることも有効であるとする。(小山委員)

- ・みなさんに賛同する。こういった考えや意見は、教育を取り巻く全体で共有し、実際何が実現できるのか本質的な議論が必要である。(内山委員)

②ボランティア

- ・ボランティアとして携わる上で、家庭により多様な考え方があるため、予期せぬ問題が起きた場合の対処が不安である。(村上委員)
- ・ボランティアに何を期待しているのか参加者がイメージしやすいよう、学校が環境作りをすることが大切である。ボランティアとしてどこまでやっていいのかわからない人のためにも、活動に求める点を明確にし、負の環境を潰していった欲しい。(松田会長)
- ・昨年のミシンボランティアに参加したが、やるべきことのイメージがしやすかった。イメージができると心構えができ、活動しやすく居心地もいい。ボランティアの活動内容の具体的な提示や発信があれば、積極的に参加してくれるのではないかと。(松本議長)
- ・緊張なく参加してもらうためにも、松本議長の意見のようなボランティアの環境作りは大切である。ボランティアに参加した際に名札を付けるなど、子供たちが「自分たちを見てくれている人」を認識することにより、ボランティアに参加しやすく活動しやすい状況になると考える。例年、運動会や音楽会では近隣の大学の学生が手伝ってくれている。この地区は大学も多いので、イベント以外でも積極的に声を掛け、手伝ってもらうのはどうか。教員を目指す者を含め、学生にとっても、いい経験になる。(今泉委員)
- ・学生は、地域との懇談会も行っている。行事だけでなく、ボランティアに参加してもらうためにも、懇談会などで声を掛けていきたい。お互いに働きかけをして、本当に必要なところへ支援の手が行き届くことが望ましい。(大澤委員)
- ・大澤委員と同意見である。大学生との懇談会で、小学校が支援を必要としていること、そしてボランティアへの積極的な参加を働きかけていきたい。また、城北公園で授業の一環として学校と地域で協力して取り組んでいることについて、発表の場を設けたいと考えている。子供たちや学校が地域の中に入っていくことは、ボランティア募集の糸口になる。(小山委員)

<その他報告事項等>

学校支援コーディネーターの今泉委員より、家庭科を中心とした1学期のボランティア参加状況や、2学期の活動予定が報告された。

司会から、次回会議は、2024年10月28日(月)午後1時15分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。